

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉版2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岡部公民館建設工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県深谷市普濟寺字中原1626-2	構造	S造
用途地域	用途地域指定無(市街化調整区域)	平均居住人員	130人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,960時間/年(想定値)
建物用途	事務所・集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2017年9月21日
敷地面積	12,831 m ²	作成者	国設計
建築面積	3,393 m ²	確認日	2017年9月25日
延床面積	3,082 m ²	確認者	国設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 89% (82 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 87% (80 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 87% (80 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.4

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>笑顔が溢れ活気に満ちた岡部らしさの発信拠点となる公民館を目指し、下記の3つを基本コンセプトとした。①地域の歴史・風土を読み取り、新公民館へ生かす。②地域住民の要望に応える多彩な活動できる場を提供する。③新たな活動から更なる交流を生み出し、地域への愛着に繋げる。</p>		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>施設は、全ての施設を1階に配置し、公民館・体育室・図書館・総合支所の相互に連携が行い構成としている。光・視環境面では、図書館等は床面から天井までの大きな開口部を設け、中央部共用スペースには屋根の段差</p>	<p>構造形式は、壁をRC造・屋根は鉄骨による小屋組みとして、内部に柱の少ないフレキシブルな空間をつくっている。構造耐震性は、基準法に定められた25%増としている。結室は、勾配屋根を利用して必要な充分な天井の高さ</p>	<p>地域の気候、環境から敷地利用計画を行っている。①建物を敷地北側に寄せることで、冬の季節風(赤城おろし)をブロック。②建物南側に庇のある広場を配置。アプローチ広場、イベント広場、防災時の活動スペースと</p>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>外皮の熱付加抑制として、サッシには複層ガラスを採用、外周に面する壁・屋根にはウレタン吹き付けによる断熱を行っている。空調方式は系統分けしたビル用マルチエアコン、換気設備は全熱交換機を使用。太陽光発電パネル(10kw)屋根に設置。</p>	<p>地業に再生砕石、トイレール下地にパーティクルボード、エコケーブルを採用し、リサイクル材の活用を行っている。また、エントランスホール天井には木製格子ルーバーにより、ハイサイド窓からの直射光を制御している。また、空調冷媒はODP=0を採用し、フロン・ハロンを回</p>	<p>建物を低層で勾配屋根とすることで、風による周辺への影響を極力低減している。日影は、基準法によるライン(3h/5h)が敷地内から外には出ない。駐車場は、200台を確保(車いす利用者も含む)。周辺道路に渋滞を発生させないために、駐車場の出入り口を幹線道路ではな</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される